

高校・一般の部 優秀賞

石川 朝子

昭和19年7月、サイパン島の守備隊が玉砕し、米軍はここを拠点として、その秋、B29の編隊が初めて日本の空に現れた。戦局は愈々極み、大都市東京は無差別攻撃を危惧していました。昭和20年3月10日未明の東京大空襲はB29が投下の焼夷弾の焰の海に十万もの人々が犠牲になり下町は焦土と化しました。後に戦争の厳しさを祖父母から聞き、惨禍に苦しんだ人々が痛ましく祖母と涙した事が今も私の心中にあります。

もはや空襲は容赦なく地方都市へと拡大し、6月立川市にB29が迫り、標的の日立航空機立川工場と更に市内の多くの軍需工場が爆撃されてしまいました。続く8月2日の八王子大空襲は焼夷弾の投下を浴び一夜にして甲州街道の街並の八割が消失されたのです。尚も5日の昼時、新宿発長野行の列車が高尾の「湯の花トンネル」に到着しかかった瞬間、米軍艦載機の機銃掃射にさらされ、死者60人、負傷者700人の列車空襲では国内最大の惨禍であったと言われています。

その十日後、終戦を迎えました。今私は戦中戦後二年間の追憶にふけ、あの石造りの分校の門を入学した時は戦時体制下であり、二年生終了で門を出る時は民主教育に代わり、二つの異なる時代を体験した事です。

戦後78年、私は今の平和を大切にしながら戦争の悲惨さや傷痕をどうしても次の世代に伝えたいと思います。

夕風の海戦しのぶ 終戦忌 朝子